

「豊かな自然と文化が輝き、  
誰もが生き生きとして暮らせるまち」  
を目指して

—温泉津ブロックまちづくり計画—

第4期（平成27年度～平成29年度）

温泉津ブロックまちづくり委員会

平成27年3月

# 目 次

第1章 第4期計画の策定にあたって	1
第2章 温泉津ブロックの現状	
1. 温泉津ブロックの概要	
(1) 位置・面積・地勢	1
(2) 沿革・歴史	2
2. 人口・世帯数	2
3. 地域資源	
(1) 産業	4
(2) 道路・交通	6
(3) 福祉・医療	6
(4) 教育	7
(5) その他の地域資源	8
第3章. これまでの取り組みと今後の課題・方向性	
1. これまでの取り組み	
(1) ふるさとの景観美化・保全と継承	9
(2) 「地域の宝」の発掘と継承	9
(3) 地域の特性を活かした防災意識の啓発と向上	9
(4) 住民参加と情報発信	9
2. 今後の課題・方向性	10
第4章. まちづくりの基本方針と具体的推進策	
1. まちづくりの基本方針	11
2. 具体的推進策	11
第5章. まちづくり事業リスト	12

## 第1章. 第4期計画の策定にあたって

大田市では現在、市民と行政が共に手を取りあい、「協働によるまちづくり」を推進しています。地域住民の積極的な参加を促すとともに、地域の連携をより一層図るために設置された「温泉津ブロックまちづくり委員会」は、平成19年度に策定した「まちづくり計画」に基づき、「豊かな自然と文化が輝き、誰もが安心して暮らせるまち」を目指して活動してきました。

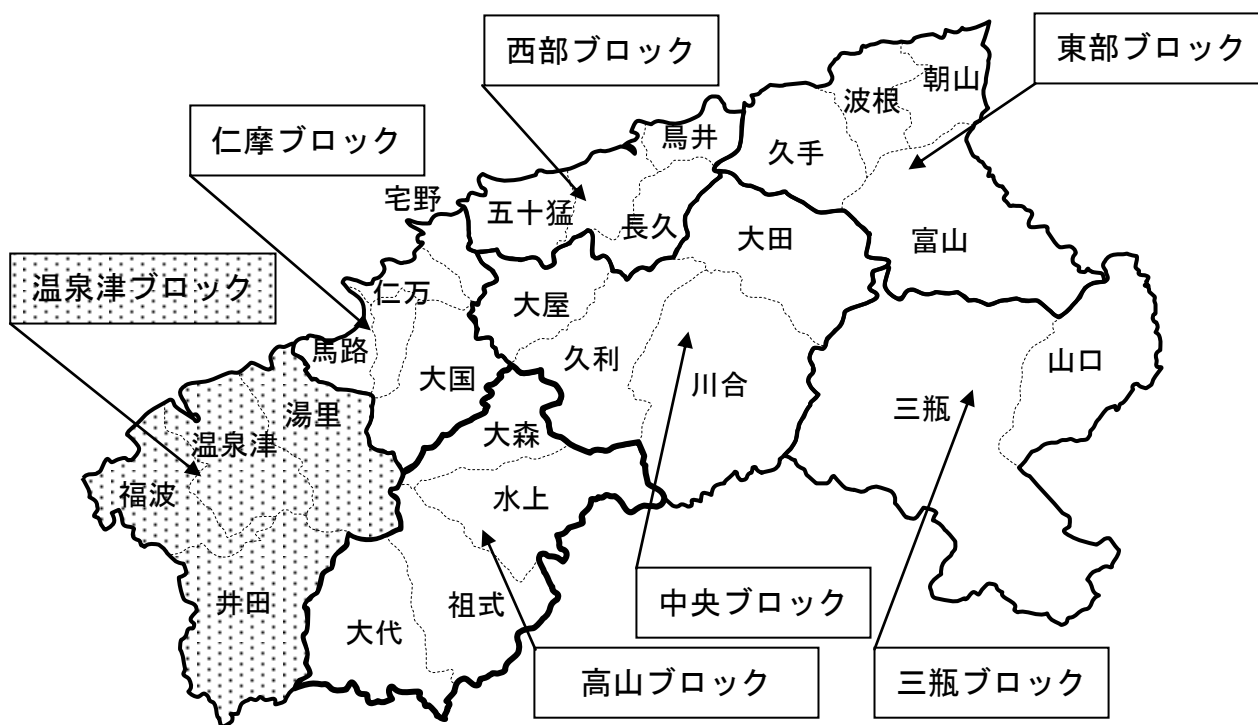
当委員会は、平成24年度から、自治会代表、公民館、まちづくりセンター代表による構成で活動しています。

このたびの第4期まちづくり計画は、これまでの活動を踏まえ、地域の宝を守り育て課題を解決するための今後の取り組み(平成27年度～平成29年度)の指針とするものです。

なお、よりよいまちづくりを推進するため、計画については、適宜見直しを行っていきます。

## 第2章. 温泉津ブロックの現状

### 【ブロックの位置図】



### 1. 温泉津ブロックの概要

#### (1) 位置・面積・地勢

温泉津ブロックは、島根県の東西のほぼ中央部、大田市の最西端に位置しています。その他江津市・川本町にも隣接し、東西 10.0km、南北 14.2km、周囲 55.0km、総面積 71.85 km<sup>2</sup>です。

山地は急峻で、500～600m級の大江高山火山群が連なります。山間地は高原や溪谷を形成し、総面積の70%以上が山林です。

海岸部は延長 20.2 kmに及び、入り組んだ地形と散在する巨石により、豪快な景観を形成しています。

## (2) 沿革・歴史

旧温泉津町は、昭和 29 年に市町村合併促進法によって誕生しました。

その歴史は古く、万葉の昔より「いで湯」と「港」によって栄え、中世から近世にかけては、石見銀山の開発とともに、経済・流通の要所として繁栄してきました。銀山の所有権をめぐる大内氏と尼子氏が争い、下克上によって大内氏が滅んでからは大内氏の跡を継いだ毛利氏が尼子氏を降ろして中国山地から北九州に至る広大な地域を支配する戦国大名になりました。

その間、温泉氏、福屋氏、小笠原氏、吉川氏等、数多くの武将たちは、尼子・毛利のはざまで、互いに競い合った攻防の時代でもありました。

1600 年、関ヶ原の戦いで勝利した徳川氏は、すぐに石見銀山を領有、大久保長安を銀山奉行に任命、周辺地域を「天領」として代官を置き、幕府の直轄地としました。温泉津は北前船の寄港地として、銀山街道を含めて大いに賑わいました。

明治以降も商船の寄港地として繁栄していましたが、鉄道が敷かれ道路が整備されてくるようになると海運業は衰退しました。現在は井田の荻村から産出される珪砂の積み出しや、漁港として整備されています。

昔ながらの旅館が立ち並ぶ温泉津温泉街は、世界遺産に指定された石見銀山遺跡の重要な拠点であり、また、国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定され、軒先の看板や漆喰の土蔵は、訪れる人々に歴史の風情を感じさせます。世界遺産となった石見銀山遺跡に関しては、温泉津温泉街のほか、沖泊港、矢滝城跡、矢筈城跡、櫛島城跡、鶉の丸城跡、西田から続く銀山街道などがあります。

## 2. 人口・世帯数

温泉津ブロック（以下ブロックという）では、毎年約 1.8%ずつ人口が減少しています。特に平成 17 年からの 5 年間では 1 割以上の人口が減少しており、昭和 60 年以降、25 年間で 4 割弱の減少となっています。

年齢別では、年少人口（0 才～14 才）の減少割合が顕著で、生産年齢人口（15 才～64 才）も 25 年間で半減しています。高齢化率（65 才以上人口の割合）は平成 27 年 1 月 1 日現在で 45.8%と極めて高くなっています。

若者の流出に伴う少子化の進行とともに高齢者のみの世帯が増加しており、集落活動の維持が困難な状況も出てきています。定住対策の継続とともに少子高齢化の現状を認識しつつ、次世代への足掛かりとなる取り組みが必要です。

## ◆地区別人口・世帯数

各年10月1日現在（単位：人、世帯）

地 区 別	平成17年				平成22年				増減 H22/H17	
	人 口			世 帯 数 x	人 口			世 帯 数 y	人口 b/a	世帯数 y/x
	総数 a	男	女		総数 b	男	女			
温泉津町 温泉津	1,415	631	784	580	1,254	569	685	531	88.6%	91.6%
〃 湯里	685	312	373	293	636	294	342	267	92.8%	91.1%
〃 福波	833	395	438	360	744	346	398	336	89.3%	93.3%
〃 井田	747	348	399	299	658	306	352	273	88.1%	91.3%
小 計	3,680	1,686	1,994	1,532	3,292	1,515	1,777	1,407	89.5%	91.8%
旧大田市 小計	32,337	15,079	17,258	11,463	30,364	14,245	16,119	11,196	93.9%	97.7%
大田市 合計	40,703	18,897	21,806	14,804	37,996	17,761	20,235	14,312	93.3%	96.7%

資料：国勢調査

## ◆人口、世帯数の推移

(人、世帯)

	S 6 0	H 2	H 7	H 1 2	H 1 7	H 2 2	H27. 1. 1 現在
人 口	5,283	4,863	4,446	4,053	3,680	3,292	3,181
世 帯 数	1,949	1,839	1,754	1,618	1,532	1,407	1,535
世帯人員 (人口/世帯数)	2.71	2.64	2.53	2.50	2.40	2.34	2.07

(S60～H22：各年国勢調査)

## ◆年齢別人口の推移

(人)

	S 6 0	H 2	H 7	H 1 2	H 1 7	H 2 2	H27. 1. 1 現在
0～14歳 (年少人口)	750 (14.2%)	643 (13.2%)	583 (13.1%)	476 (11.8%)	367 (10.0%)	254 (7.7%)	246 (7.7%)
15～64歳 (生産年齢人口)	3,144 (59.5%)	2,680 (55.1%)	2,179 (49.0%)	1,910 (47.1%)	1,771 (48.1%)	1,587 (48.2%)	1,479 (46.5%)
65歳以上 (老年人口)	1,389 (26.3%)	1,540 (31.7%)	1,684 (37.9%)	1,667 (41.1%)	1,542 (41.9%)	1,451 (44.1%)	1,456 (45.8%)
合 計	5,283	4,863	4,446	4,053	3,680	3,292	3,181

(S60～H22：各年国勢調査)

### 3. 地域資源

#### (1) 産業

#### ◆産業（3部門）別就業者・割合、従業上の地位（2区分）別割合

平成22年

地 域	産業3部門別 就業者			従業上の地位別割合		年齢3区分別 人口		
	平 成 2 2 年					0～14歳	15～64歳	65歳以上
	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者			
大田市	1,985	4,765	11,130	80.4	19.6	4,372	20,456	13,162
[温泉津町]	230	406	838	74.1	25.9	254	1,587	1,451
(井田村)	122	74	122	57.5	42.5	43	306	309
(福光村)	17	79	114	80.6	19.4	39	233	241
(福浦村)	21	29	63	79.6	20.4	11	131	89
(温泉津町)	35	143	389	77.6	22.4	106	608	540
(湯里村)	35	81	150	78.6	21.4	55	309	272

平成17年

地 域	産業3部門別 就業者			従業上の地位別割合		年齢3区分別 人口		
	平 成 1 7 年					0～14歳	15～64歳	65歳以上
	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者			
大田市	2,468	5,309	11,804	76.9	23.1	5,009	22,337	13,357
[温泉津町]	293	450	906	69.7	30.2	367	1,771	1,542
(井田村)	157	98	131	53.6	46.4	69	346	332
(福光村)	27	68	128	74.9	25.1	44	278	233
(福浦村)	26	27	60	78.9	21.1	21	145	112
(温泉津町)	36	161	443	73.8	26.1	171	689	555
(湯里村)	47	96	144	74.5	25.5	62	313	310

平成12年

地 域	産業3部門別 就業者			従業上の地位別割合		年齢3区分別 人口		
	平 成 1 2 年					0～14歳	15～64歳	65歳以上
	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者			
大田市	3,010	6,544	11,332	74.3	25.7	476	1,910	1,667
[温泉津町]	307	525	881	66.9	33.1	476	1,910	1,667
(井田村)	152	123	136	56.0	44.0	89	388	378
(福光村)	28	90	134	76.2	23.8	85	299	250
(福浦村)	25	32	59	74.4	25.6	36	135	132
(温泉津町)	44	177	406	65.7	34.3	181	729	583
(湯里村)	58	103	146	73.3	26.7	85	359	324

資料：国勢調査

#### ①農業

農業はブロックの基幹的産業の一つですが、農家数及び従事者数ともに減少していま

す。経営規模が零細な農家が多い中、近年では水稲と比較的高収入を確保できる特産品のメロンや西条柿栽培、畜産との複合経営を行っている農家もあります。また酪農では、中四国地方でも有数な大規模酪農経営が行われています。

高齢化の進行が大きな問題であり、産業の維持のためにはU・Iターンを含めた担い手の確保が急務となっています。

◆旧町村別農家数・農家人口・経営耕地面積・経営耕地面積規模別農家数（販売農家）

平成22年2月1日現在

注：販売農家＝経営耕地面積が30アール以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家。

旧町村名	農家数（戸）				農家人口（人）			経営耕地面積（a）			
	総数	専業	兼業		総数	男	女	総数	田	畑	樹園地
			第1種	第2種							
温泉津	11	3	1	7	39	19	20	748	375	83	290
湯里	34	13	2	19	110	59	51	1,912	1,349	83	480
福光	14	3	2	9	50	29	21	1,385	1,318	45	22
福浦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
井田	110	37	12	61	354	172	182	12,015	11,102	888	25
ブロック計	169	56	17	96	553	279	274	16,060	14,144	1,099	817
大田市計	1,436	428	110	898	5,094	2,567	2,527	140,285	113,379	21,594	5,312

資料：2010年世界農林業センサス

②水産業

水産業は、近海が好漁場であり、定置網・一本釣り・小型底引き網漁業が営まれています。従事者の高齢化と後継者不足のため漁獲量は減少傾向にあります。稚魚の放流、漁礁の設置など、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」へ移行されつつありますが、農業と同様に担い手の確保が問題です。

③商工業

商業はほとんどの店が、零細小売業であり、消費者ニーズの多様化、車社会とあいまって町外の大型店へ消費が流出しているのが現状です。工業分野では豊富な地下資源を活用して、瓦（粘土）、板ガラス材（珪砂）、墓石・灯籠（福光石）などの特産品を輩出しています。

豊富な地下資源の多角的な活用を推進し、観光客や消費者に受け入れられる特産品の開発が必要となっています。

④観光業

ブロックでの観光資源は、海水浴などのマリンスポーツ、温泉、旅館街等、数多く存在します。平成19年7月に沖泊港、銀山街道、温泉津温泉街の町並みなどが、石見銀山遺跡とその文化的景観の一部としてユネスコの世界遺産に登録され、温泉津を訪れる観光客が増加しています。

大田市観光協会等との連携を深めるとともに、温泉津ならではの「おもてなし」の充実に向けた取り組みや、道路、駐車場等の整備を進め、地元及び観光客の利便性と満足度を高めることが望まれています。

## (2) 道路・交通

ブロック内の基幹道路は国道9号に加えて、仁摩・温泉津道路（石見福光IC－湯里IC間）が平成26年3月に開通し、平成27年3月には、湯里IC－仁摩・石見銀山IC間が供用開始となりました。このほか、主要地方道温泉津川本線をはじめ、一般県道6路線、市道183路線がありますが、狭隘な道路が多くあり改良が必要となっています。

ブロック内の公共交通は、JR、石見交通が運行するバス路線、そして市営バスがあります。

住民生活の維持・向上のため、既存公共交通機関の利用促進による路線の維持や、公共交通空白地帯での新しい交通手段の確保が求められています。

## (3) 福祉・医療

ブロック内には、温泉津保育所と温泉津保育所湯里分園がありますが、少子化傾向に歯止めがかからず、園児も毎年減少しています。また福祉施設「湯の郷苑」では、特別養護老人ホーム、デイサービスなどの各種サービスが提供されています。

少子高齢化の進行にともない、安心して子育てができる環境づくりの1つとして学童保育の取り組みが行われています。また、障がいのある人もない人もすべての人が安心して、ともに暮らせる社会の実現が必要です。

ブロック内での医療機関は、1医院と1歯科医院があります。このほか2地区では町外の医療機関が週1回程度、診察を行っています。また二次医療については、大田市立病院と済生会江津総合病院が担っていますが、緊急医療体制の充実が必要です。

ブロックを構成する4地区のうち、1地区には医療機関がなく、早急な対策が望まれています。

### ◆福祉関係の統計数値

平成26年4月1日現在

区 分	温泉津	福波	湯里	井田	ブロック計	大田市計
世帯数 a	601	361	289	297	1,548	16,096
人口 b	1,259	722	603	650	3,234	37,568
65歳以上人口 c	531	329	287	312	1,459	13,449
高齢化比率 d=c/b	42.2%	45.6%	47.6%	48.0%	45.11%	35.8%
独居老人数 (=世帯数) e	135	113	85	92	425	3,166
独居老人比率 (対世帯数) f=e/a	22.5%	31.3%	29.4%	31.0%	27.45%	19.7%
独居老人比率 (対人口) g=e/b	10.7%	15.7%	14.1%	14.2%	13.14%	8.4%
独居老人比率 (対65歳) h=e/c	25.4%	34.3%	29.6%	29.5%	29.13%	23.5%
6歳未満人口 j	47	21	18	13	99	1,573
幼年者比率 k=j/b	3.7%	2.9%	3.0%	2.0%	3.1%	4.2%

出典：大田市市民課／社会福祉課



#### (4) 教育

平成23年4月に、ブロック内の小学校4校が統合、中学校1校も平成26年4月に隣接する仁摩ブロックの中学校と統合されました。幼稚園も園児の減少により平成27年3月から休園となるため、ブロック内には小学校が1校のみとなりました。

また、平成21年4月からはブロックに公民館1館と各町単位にまちづくりセンターが設置され、より専門的な社会教育の実施や学校・家庭・地域と連携した事業、生涯学習活動の支援など、市民と行政の協働によるまちづくりに取り組んでいます。

これまで培われてきた地域全体による子育てやふるさと学習をこれまで以上に大切に、継続していく必要があります。このほか、過疎・高齢化を踏まえブロックの特性をいかした人的ネットワーク活動が行われています。今後はさらに幅広い年代を巻き込んだ取り組みが必要です。

#### ◆小中学校の児童・生徒数及び学級数、幼稚園児数の一覧

##### ①小学校

毎年5月1日現在

小学校名	上段：学級数、下段：児童数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
温泉津小 ※1	7 103	7 104	7 103	7 97
小学校計	124 1,787	122 1,794	116 1,770	120 1,733

資料：大田市教育委員会総務課

※1 平成23年4月1日、湯里小と温泉津小と福波小と井田小が統合し、新温泉津小が誕生

##### ②中学校

毎年5月1日現在

中学校名	上段：学級数、下段：生徒数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
大田西中 ※2	<del>          </del>	<del>          </del>	<del>          </del>	(9) (154)
温泉津中 ※2	4 54	4 55	4 61	<del>          </del>
中学校計	48 937	48 922	46 918	45 895

資料：大田市教育委員会総務課

※2 平成26年4月1日、温泉津中と仁摩中が統合し、新大田西中が誕生

##### ③幼稚園の園児数

毎年5月1日現在

幼稚園名	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
井田幼	5	3	4	4
幼稚園計	104	111	95	79

資料：大田市教育委員会総務課

## ◆保育所園児数

平成26年4月1日現在

町別	施設名	区分	定数	在園児数
温泉津	温泉津保育所	大田市立	60	50
湯里	湯里分園	大田市立	20	9

資料：大田市子育て支援課

## ◆まちづくりセンターの概況

施設名 所在地 (大田市)	構造 建築年	面積 収容人数	備考
温泉津まちづくりセンター 温泉津町小浜イ486	鉄筋2階建 昭和56年	1,109.5㎡	温泉津コミュニティセンターと供用 温泉津支所及び保健センターとの複合施設
福波まちづくりセンター 温泉津町福波ハ467-1	鉄骨平屋 平成8年	345.8㎡	福波小学校との複合施設
湯里まちづくりセンター 温泉津町湯里1655	鉄筋2階建 平成12年	1494.0㎡	H25.4旧湯里小学校へ移管
井田まちづくりセンター 温泉津町井田口255	鉄筋平屋 昭和10年	1,366.76㎡	井田幼稚園と老人福祉施設との複合施設

## (5) その他の地域資源

歴史、文化、伝統、景観、名産品・・・先達から受け継ぎ、私たちの手で守り、未来の子どもたちに伝えていくべき『宝』が、温泉津ブロック内にはたくさん存在します。

## 【代表的なもの】(順不同)

史跡	伝統	特産品	その他景勝地など
银山街道	ヨズクハダ	西田葛	櫛島海岸
不言城跡	のぼり窯	木炭	沖泊
高越城跡	石見神楽	西条柿	古龍
矢滝城跡	御日待祭り	メロン	福光海岸
矢筈城跡		石州瓦	福光石採石場
櫛山城跡		珪砂	
鶉の丸城跡		福光石	
水上神社			
恵比須神社			
鼻ぐり岩			
重伝建の町並み			

ほかにも、指定文化財、多数の山城跡、寺社や秋祭り、盆踊りなど地域に伝わる伝統行事も残されています。また、町内各地に点在する庭園、巨木、桜並木、夕日スポットや夏祭りなど、あらためてその価値を見直し発信していく必要があります。

### 第3章. これまでの取り組みと今後の課題・方向性

#### 1. これまでの取り組み

温泉津ブロックでは、平成19年度に策定した「まちづくり計画」に基づき、「豊かな自然と文化が輝き、誰もが安心して暮らせるまち」を目指して活動してきました。

##### (1) ふるさとの景観美化・保全と継承

世界遺産である「銀山街道（温泉津・沖泊道）」、「櫛島」、「沖泊」や石見吉川氏の居城であった「高越城址」などの整備活動は、ブロック内の史跡を地元住民の手で守り、来訪者が安心して散策できる環境を整えるとともに地元住民もその歴史や魅力を再認識する機会とするものです。「櫛島」では地元中学校の生徒が行う海岸清掃と同日開催とし、作業後には生徒に対する歴史解説なども行っています。活動の参加者が固定化してきているため、より多くの参加を促す工夫が必要です。

##### (2) 「地域の宝」の発掘と継承

ブロック内には史跡のほかにも歴史や文化、伝統、景観など、守り育て後世に伝えるべき「宝」が数多く点在しています。名勝地「松島」の松を再生し、かつての景観を取り戻すための活動は、地元の保存団体の協力を得て平成20年度から現在まで継続しています。植栽した松の苗木の管理のため、定期的に島へ渡り、生育状況の確認や消毒、除草作業などを行っています。松が再生するまでには長い期間を要することや離島での作業になるため作業人員に限られることなどから、ブロック全体の取り組みとするための工夫が必要です。

このほか、「ヨズクハデ」の伝承と深い関わりのある水上神社にまつわる講演会の開催や、神々が歩いたとされる神話の道の整備とウォーキング、民俗資料の整備支援など、学習機会の拡大や地域外への情報発信など、地元住民と来訪者の満足度を高めるための活動を行っています。

##### (3) 地域の特性を活かした防災意識の啓発と向上

全国的な防災意識の高まりの中で、人口減少・高齢化が著しい温泉津ブロックでは、より効率的・効果的な災害対策が必要です。井田地域では、有事や訓練の際に活用できる「マップ」を作成し、消防署やまちづくりセンター、自主防災組織の協力を得て、机上訓練を行いました。危険個所や要援護者の居住状況、避難経路等の情報を反映させ、関係者が情報を共有し、減災に向けた意識強化につなげるため、ブロック全域での取り組みとすることが必要です。

##### (4) 住民参加と情報発信

「ホット・スプリング・フェスティバル」は、平成18年度を最後に休止となっていた「温

泉津町産業文化祭」にかわって、平成 21 年度から開催されています。温泉津公民館、まちづくりセンター、まちづくり委員会、町内の各種団体が構成する実行委員会が中心となり、それぞれの活動や学習成果の発表、ブロック内 4 地区それぞれの魅力の掘り起こしと PR、課題の共有、学習機会の拡大を図る目的の催しです。中心企画の「地域力発表」は、ブロック内 4 地区が、地域の特色を生かしたプレゼンテーションを行うもので、準備段階から住民自身が地域を振り返ることができるとともに他地区にもその魅力を発信することができる有効な機会となっています。

6 回の開催を数えるなかで、企画内容をより新鮮味のあるものにするなど、今後も多くの来場者に足を運んでもらえるような工夫が必要となってきています。

## 2. 今後の課題・方向性

平成 25 年 2 月に実施した、ブロック内の全戸を対象とした「まちづくりアンケート」の結果では、8 割以上の方が、住んでいる町に愛着を感じていると回答している一方で、将来の生活に不安を持っている人は 9 割を超え、要因としては「医療」、「介護」、「交通」が上位を占めています。住んでいる町の良いところとしては、「豊かな自然環境」や「地域のつながり」が挙げられており、「伝統行事」、「史跡・文化財」、「自然環境」などを「地域の宝」として大切にしていると回答しています。また、まちづくり活動への協力が可能なものとしては、「環境美化活動」、「自治会活動」、「防災活動」が上位に挙がっていますが、これらアンケートの結果は、まちづくり委員会がこれまで行ってきた活動の方向性と一定程度、合致しており、今後も継続していく必要があります。一方で、まちづくりセンターや公民館の活動に参加したことがある人が 6 割を超えているのに対して、まちづくり委員会の活動への参加は 2 割強にとどまっています。

「まちづくり」とは、「自分たちが暮らすまちを自分たちの手でつくる」ことであり、そのためにはまず、「地域に暮らす一人ひとりが、地域を知り、地域に親しみ、地域をもっとよくしたい」と思うことだと考えます。

温泉津ブロックは、平成 17 年 10 月の自治体合併により大田市の最西端となりました。位置としては市の周辺部となったことから、ブロックとしてのまとまりを一層強くするための事業に取り組んできました。歴史的な資源や文化・伝統、美しい景観などを数多く有する温泉津ブロックでは、地域でこれらを守り、育て、次代に引き継ぐための活動を通じて、地域を知り、魅力を感じ、地元で自信と誇りを持ち、「住んで良かった」と思える地域づくりのきっかけとなる活動を今後も継続していく必要があります。また、地域住民や来訪者の満足度を高めることにつなげるために、学習機会の提供、参加を促す仕組みづくりを行うとともに、事業の周知や情報発信にも重点を置く必要があります。

## 第4章. まちづくりの基本方針と具体的推進策

### 1. まちづくりの基本方針

温泉津ブロックでは、引き続き「豊かな自然と文化が輝き、誰もが生き生きとして暮らせるまちづくり」をテーマとして掲げ、次の4つを基本方針として地域課題の解決に向けて取り組みを進めます。

#### (1) 豊かな自然と歴史、文化を大切にするまちづくり

美しい自然や豊富な史跡、歴史と伝統文化を再認識し、後世に伝えるための取り組みを進めます。

#### (2) 住んでよかったと思えるまちづくり

過疎化が進む地域にあっても、子どもからお年寄りまでが生き生きと輝き、安心できるまちづくりを行います。

#### (3) みんなが参加するまちづくり

地域に暮らす、より多くの住民の知恵と力を結集し、自らの手で主体的に取り組む機運を醸成します。

#### (4) 地域の特性を活かしたまちづくり

地域の人的・自然的（海・山・里）特性を活かし、交流と連携を推し進め、産業の育成を目指します。

### 2. 具体的推進策

#### ①ふるさとの景観美化・保全と継承

銀山街道をはじめとする世界遺産や史跡、自然環境の美化・保全推進活動に取り組みます。

#### ②『地域の宝』の発掘と継承

地域の名所、伝統や文化、人材等の掘り起しや紹介により、地域の財産を再認識しこれらを守り育てる機運を醸成します。

#### ③地域の特性を活かした防災意識の啓発と向上

- ・防災について考える ⇒ 講演会、講習会等の開催
- ・対話環境の充実 ⇒ 声掛け運動の実施等

#### ④住民参加と情報発信

各種団体との連携により活動のすそ野を広げるとともに、活動状況を広報周知し、関心を高める活動を行います。

## 第5章. まちづくり事業リスト

(第4期：平成27年度～平成29年度)

事業区分	事業名等	事業概要	予定期間		
			H27	H28	H29
歴史 自然	ふるさと景観美化・ 保全事業	世界遺産をはじめとする地元の歴史的な資源や自然の保護・美化に取り組み、来訪者が安全に散策できる環境を整えるとともに、地域でこれらを守りその歴史や魅力を再認識する機運を醸成する。	○	○	○
文化 伝統	『地域の宝』発掘・ 継承事業	景勝地や景観スポットの掘り起しや復元、地域の文化、伝統、風習を探り、これらを紹介する活動を通して地域の魅力を高め後世に伝える。	○	○	○
防災	地域の防災事業	講演会や講習会の開催を通じて防災意識の啓発と向上を図るとともに自主防災会設立に向けた支援を行う。また、災害時や災害を想定した訓練において必要となる地図の作成等により危険個所や要援護者の居住地、避難経路等を共有し有事に備える。	○	○	○
文化 情報	『ホット・スプリング・フェスティバル』の企画、開催	公民館、まちづくりセンターとともに「地域の産業・文化・教育の祭典」の開催に向けたコーディネートを通じて、人材の育成、地域力の向上、地域間交流、にぎわいの創出を図るとともに地域資源や特産品をPRし、地産地消・産業振興につなげる。	○	○	○